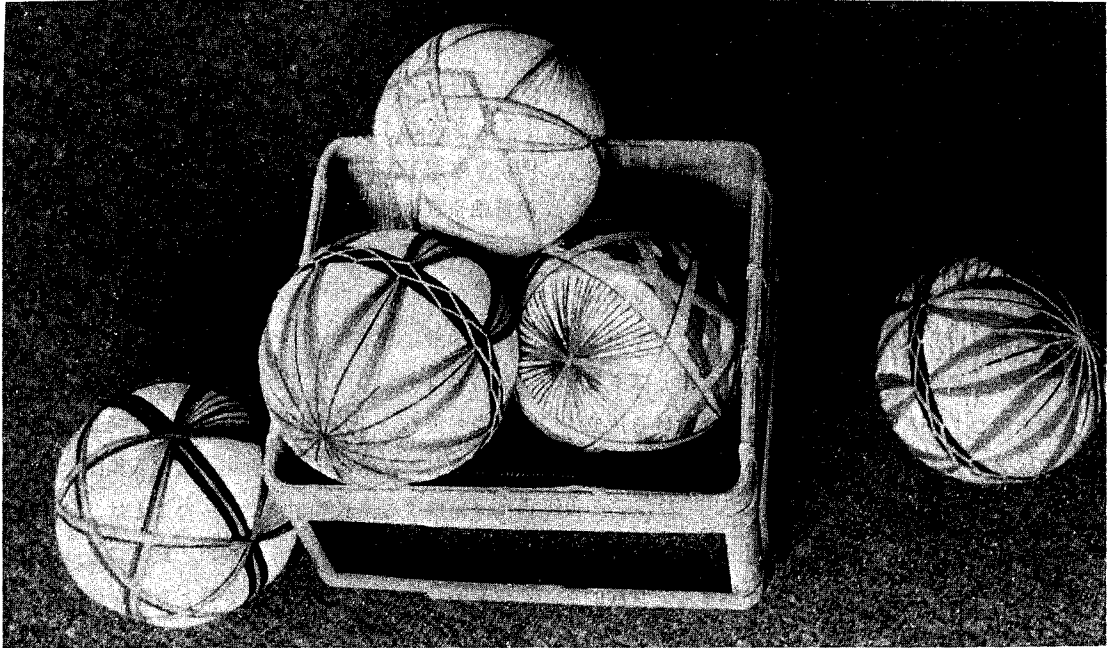


# 図書袋だより

号数 第 26 号  
発行日 昭和 49 年 6 月 1 日  
編集 島根県立図書館  
発行 松江市内中原町 52  
TEL (0852) 22-5725  
印刷 榎高浜印刷所



いづもまり

## メール制実施にあたって

16万冊にも及ぶ書籍が眠っている。蔵書というものは、元来、そうしたものだといってしまうは、それまでのことである。

いくら、立派な図書館をつくり、蔵書数を誇ってみたところで、十分利用されていないならば、それは死蔵に過ぎない。

県立図書館の所在地である松江が、県の東部に偏しているためもあって、利用者の大部分は、松江市民の大部分かその近郊住民に限られている。これでは、充分なる県民サービスは行なわれていないとのそしりを受けても、まず、仕方のないところである。

そこで考え出したのが「メール」制である。つまり、手紙や電話で申込みを受け、郵送や託送で、県下に広く、貸し出しをしようというのである。これには、どんな本が図書館にあるか、県民に知られることが先決である。泥縄的に、蔵書目録を2ヶ年かかって完成した。これを全県下の公共機関にばらまいて、その責めが果せると考えたのである。

ところがどうだろう。今のところ、完全に期待はずれである。この制度についてのPRが不足しているせいもあるが、マスコミが騒いでくれたほど、利用者がでてこない。目録の絶対数が充分でないことの上に、県民の大多数が、難かしい書物に無縁であるからである。大体、図書館など、学生達の受験勉強の場所位に考えられている現状では、「メール」制は、若干、一人相撲の感がしないでもない。

だからといって、県民を批難するには当たらない。GNPをあげるため、国民生活を犠牲にしてきた政治の貧困が元兇であろう。そのため、民衆には、読書の余裕すらなかったのである。その責任を感じる。なんとしても、われわれはこの「メール」制が活用されるように努力せねばならない。

県立図書館長 速水保孝

# しまねの民芸 その1

速水保孝

民芸ブームである。巻の民芸店には、田舎じみてはいるが、粗悪な機械製の土産品を全国から寄せ集め、ところ狭しと並べたてては、民芸品と呼称して売りまくっている。民芸調飲食店も劣らず大繁昌。店を田舎屋風にしつらえて、店先に水車などをあしらひ、米搗き臼からミノ、カサに至るまで、これでもかとばかり、民具を手当たり次第にかざっては、うどんやソバを食わしている。さらに、温泉旅館に民芸の宿なるものも現われるに至った。何のことはない。外観ばかりが民家風で、一步入れれば、少々金目の古民芸品が申し訳的に陳列されているだけである。猫も杓子も「民芸」なる文字にひかれて惜しげもなく大金を投じている。これには、日本における民芸美の発見者である柳宗悦も、さぞかし、地下で苦笑していることであろう。

日本の民芸運動は、大正11年1月「陶磁器の美」なる論文を発表した柳宗悦によって始まる。貴族的で高級な工芸品だけに、美があるという風潮に反発して、平凡で民衆的な日用雑器の中にこそ、真に健康的な美が存在すると強調した。

柳によれば、民衆の用いる工芸品を要約して「民芸」と呼ぶのであって、民衆が日々の生活に用いる実用品を指すというのである。従って、工芸品というからには、絵画や彫刻の如き、既に独立した美術品は、これに含まれない。さらに近世大名による特別な庇護の下に、育てられてきた貴族的な工芸品は、もとより、民芸品ではない。「一家で、日夜用いる品物、たとえば、着物・食器・容器・家具・刃物その他」の量産された手作り工芸品が、民芸と呼ばれたのである。

一例をあげれば、楽山焼は松江藩の藩窯で殿様のプレゼント用に、伊羅保系の茶陶を焼いてきた。だから、楽山焼は庶民にとっては、高嶺の花であった。ところが、布志名窯では、主として民衆のために日用雑器を焼いた。ポテポテ茶碗、徳利、片口、鉢類



ポテポテ茶碗

などには、なるほど、楽山窯ほどの上品さはない。しかしながら、工人達は反覆量産してきたから技術的にも大変すぐれている。陶器の健康的なボディに、濃黄釉や黄釉、くすんだ緑釉などをたっぷりかけた肌には、民衆の土の匂がする。そこには、楽山窯には見られない今一つの美が感じとられる。それが民芸の持つ美しさだというのである。

金持のみが美の享受者とされ、そのための工芸品が高尚で美しいものとされているのに反発し、民芸美を強調した柳宗悦自体、貴族的文化人集団である白樺派に属する宗教哲学者であったことは、余りにも皮肉なことといわねばならない。民衆にとっては、それを美しいものと体系づける暇と金がなかったのである。

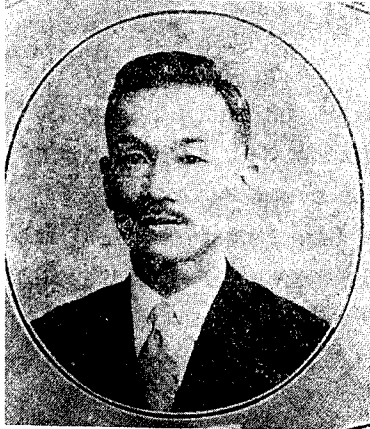
ともあれ、柳宗悦の呼びかけに対して、安来市出身である京都の故河井寛次郎、現在も栃木県の益子で活躍している浜田庄司などの陶芸家が賛同し、ともに、活発な民芸運動を展開するが、やがて、その波動が山陰にも及んできた。期せずして、鳥取には、医師でもある民芸人吉田障也がおり、松江には、実業家で文化人である太田直行がいた。

太田は島根民芸運動の名伯楽であった。たまたま陶芸家の河井と松江中学が同窓であり、親友であったところから、つとに、河井を通じて、民芸美の何かを理解していた。

昭和6年5月4日、島根の民芸運動の夜明けがきた。太田直行は九州帰りの柳宗悦を、津和野に迎え、今様の言葉でいえば、企業診断ともよばれるべき「島根工芸診察」の旅に上った。益田で喜阿弥焼の土瓶と糊壺に感激した一行は、石見路の窯場を廻って、工人を激励し、出雲路に入った。今市の日の出

団扇を見、布志名、湯町、袖師の窯場を訪れ、さらに広瀬の絞り染から八幡窯を巡回し、母里、安来の諸窯を視察して、その旅は終わった。続いて、太田は、6月から7月にかけて、松江、温泉津、浜田の地で「正しき工芸品の展観」と銘うって、柳と河井から借りうけた多くの古民芸品を展示した。

太田の招きで、柳、河井、浜田等、日本民芸運動の父達は、その後も盛んに島根を訪れた。かくして雑器作りに明けくれて、自らの作品の美に気付かなかった各地の工人達に、大いなる自信と希望とを植えつけることになる。昭和7年、「島根民芸会」が発足し、これに馳せ参じた人達の中に、布志名の船木道忠、袖師の尾野敏郎、湯町の福岡貴士らの陶芸家、ならびに、今は人間国宝の榮譽に輝く、出雲和紙の安部栄四郎がいた。



太田直行氏

その上、国際色が加わった。布志名の濃黄色の鉛釉が、英国のカレナ釉に似ているところから、深い関心をもった英人陶芸家、バーナード・リーチは、昭和9年8月、出雲を訪れ、これらの民芸家達に接した。そして古い英国陶芸のスリップ手芸とデザインを伝えた。

布志名の名家「灘船木」のプリンス、船木道忠はついに心眼を開いた。累代の工場を閉鎖して、従来の上手物とは絶縁した。河井、浜田、リーチなどの影響を受けながらも、彼自らの道を見出した。大原郡加茂町三代土（白土）と布志名の報恩寺土（紅土）とを混用し、あくまでも、布志名の伝統的濃黄釉を守り、東洋的色彩豊かな作陶を標榜し、茶陶から日用雑器に至るまで、あらゆる品目を手がけた。中でも、黄、緑、白の三彩は見事で、やがては、河井、浜田に比肩されるほどの民芸調の個人作家に成長した。

だが、無情の風は若山神社の老松を揺がせた。昭和37年、島根県の無形文化財保持者の第1号に指定されたのも束の間、惜しくも63才でその世を終えたのである。それは、柳宗悦が72才で死んでから、2年目のことであった。巨星は相次いで落ちた。だが、その衣鉢は、令息研児が継いだ。浜田庄司は研児の手をとって教えた。さらに彼は渡英して、セントアイブスのリーチ窯で技を磨き、中世の英国陶芸を学んだ。帰朝し、彼の作品には、ぐっと国際色が加わりながらも、布志名の伝統がよく生かされ、研児は日本的な民芸派個人作家に成長したのである。

船木父子が個人作家になったのに対し、同じく民芸を志した袖師窯の尾野敏郎は、令息普也とともに民衆の日用雑器を量産するという民芸の伝統を守り切っている。しかもブラッセル万国博に出品した掛分酒器は、見事にグランプリ賞に輝いた。また湯町窯の福岡父子も多数の職人とともに、美しく、健康的な民芸調の日用雑器をのぼり窯で量産し、布志名の伝統を生かしながら、新しい民芸品を創作しつつある。

敗戦後、出西の地に、新民芸が芽生えた。多々納弘光をリーダーとする五人の農村青年が協力して、量産している出西焼の雑器には、「天分に恵まれず、才能が乏しくとも、りっぱな美しい物を生む道」という柳の遺訓が生かされている。

太田直行主宰の「正しい工芸品の展観」会場に、一人の紙すき青年が入ってきた。太田直行の紹介で、民芸の大家柳宗悦の前に、おそろおそろ持参の試作品を並べた。すると柳は厚手の雁皮紙をとり上げ「これだ、これこそ日本の紙だ」と激賞したという。この時、青年の行くべき、けわしい民芸紙への道が決まった。今は人間国宝、安部栄四郎の若き日のできごとである。安部は、古くは天平の昔までさかのぼれる出雲和紙の伝統を守り切り、「出雲民芸紙を別所部落の人々とともに産み出したのである。まさしく、太田直行は、島根の民芸の父というべきである。今静かに、鳥取市で余生を楽しんでおられる太田氏に、われわれは心からなる感謝と敬意を捧げねばならない。（未完）

# メール制による 貸出要領

A：モシモシ、今度新しくメール制による図書の貸出というのができたそうですが、どうすれば借りれるのですか？桜江町の〇〇という者ですが

B：はい、それは非常に簡単に借りることができます。最初だけは登録をしていただきますが、これは住所・氏名・電話番号および勤務先（学校名）を知らせていただき、本人であることの確認のため保険証の記号と番号を知らせていただければ、それで万事OKで、いつでも図書の名前さえわかればお送りします。申し込みは電話でも、ハガキでも結構です。

A：そうですか。ところで保険証というのは健康保険証のことですか。又必ず保険証でなければいけませんか。

B：そうです。健康保険証のことです。会社にお勤めの方は組合保険証ですし、お勤めでない方は国民健康保険証ということになります。それから保険証のない場合は、本人であることが証明できるものの写し（コピー）があればよろしいです。

A：わかりました。それから本を借りる際、県立図書館に何があるかということがわかる方法がありますか。

B：私共の方で当館の蔵書目録というものを作り、各市町村教育委員会や市町村立図書館等へ送っておりますので、それを利用して下さい。直接当館へ本の有無をお聞きになっても結構です。

A：私たちにとって送料のことが気になるのですが、どうなっていますか。

B：この点が最も残念なことですが、現在のところ往復を利用者が負担することになっております。しかし、最近の郵便料金は大変高いので、少くとも片道の料金ぐらひは県立図書館が受け持つことができるように努力しております。

A：ありがとうございました。近いうちに申し込みたいと思いますので、よろしく願います。

B：こちらこそよろしく願います。

◇ ◇ ◇

以上の会話は、最近あったメール制についての電話による問い合わせの一例です。メール制についてはすでにテレビやラジオで報道されているので、ご存知の方もあるでしょうが、遠隔地の居住者や、からだの不自由な方にサービスするために設けられたもので、この四月からスタートしました。これによって県下のほとんどの人に図書の貸出ができるようになりました。現在始まったばかりですが、すでに登録者も貸出件数もかなりの状況です。こんご、利用者が増加することが予想されます。

なお、病院等に入院している方々の利用が多いと考えられますので、この方々のために病院等の施設を一単位として、一括貸出できるようにもしております。

◇ ◇ ◇

## メール制による貸出の要点

- (1) 利用のできる人  
県内に居住する方、又は県内で勤務もしくは在学する方で、遠隔地居住者又はからだの不自由な方
- (2) 登録の手続き  
①氏名・生年月日  
②住所・電話番号・郵便番号  
③勤務先又は学校名  
④保険証の記号と番号  
を明示して申し込み下さい。（電話も可）
- (3) 図書の請求  
図書名を明示して申し込んで下さい。（電話も可）〔図書の選択は各市町村教育委員会、各公共図書館等に備えてある蔵書目録を利用して下さい〕
- (4) 冊数と期間

原則として3冊(2kg)まで。30日間。

(5) 貸出しない図書

①貴重図書 ②郷土資料 ③辞書等の参考図書 ④その他館長が貸出を不相当と認めるもの

(6) 送付の方法および送料の負担

発送・返却は原則として書籍小包で行ない、

当館使用の封筒を利用する。送付に要する経費は利用者の負担とする。

(7) 申し込み先

松江市内中原町52 〒690

島根県立図書館

奉仕課 メール制係

## ＝メール制を利用するにあたって＝

昨今、福祉ということばがもてはやされ、私たちの回りにもそうした福祉の観点からと思われる各域における、配慮が行なわれてきた。

図書館においては、地域住民全ての利用の場として老若男女を問わずだれでも不便なく利用できるいろいろな方法が考えられた。その一つの方法として、今度「メール制度」という郵便による借出しの方法が実施されるという。たしかに、時間的、地理的に図書館に向くことが困難な人には、便利な制度である。そして又、時代に相応したスマートな制度である。

### 身体障害者総合指導所 自治会 文化部

しかし、この制度、うまく利用することが必要であろう。100%この制度にすぎるのではなく、折角、図書館の内部構造が車イス、その他の人たちにも利用できるようになってきているのだから、季節的に図書館に行ける時期は、大いに出向き、そして、寒くなるような季節には「メール制」を利用するというように、合理的に図書館の機能を十分生かした形で利用することが必要であると思う。

激しく変化する現代社会において、こうした新しい制度に答え、大いに書物によって自己を成長させ、進歩させることが大切である。

メール制貸出しについては、私達石西の遠隔の地にある住民は以前から強く要望し、県立図書館も随分前から計画され、その実現について努力されていたところですが、ようやく実現をみるに至ったことは、まことに嬉しいことで、図書館サービス活動の前進であると喜びにたえません。

それにつけて思われることは、まことにささやかなこの計画が、ようやくにして実現したということは、日本の図書館行政が後進消極的であり、熱意がないことを物語っていることを、声を大にしていわなければなりません。

このメール制も、私達利用する立場からいえば、多少の不満なきにしもあらずです。というのは、私達のように遠隔の地にある者が利用する場合、本の往復送料が近い人より高くなり、日時も多く要します。このことはメール制の意図に反しています。将来は全て無料になるよう望んで止みません。

それから、遠近にかかわらず望みたいことは、借

### 津和野町立図書館長 岡田吉男

りたい図書を選ぶための目録をもっと多く市町村に配布してほしいことです。私の町、津和野町には、一般人が見られる目録はたった一部であり、少なくとも私達の町には、津和野・畑迫・木部・小川の四地区の公民館に一冊宛はほしいということです。

なお、このメール制について知らない人が多くいます。たとえ知っていても、利用しようという気を起すようにするためには、相当の努力を必要とします。テレビで一回や二回放送したって利用しようという気持を起こさせるには不十分です。各市町村でもその市町村発刊の広報紙や公民館報、団体の発行する機関紙等に掲載し利用をすすめる努力が必要であり、県立図書館も掲載原稿を送付し、依頼する等の対策も必要な気がします。

本を手にとって選べないメール制の根本的な欠点の克服には相当の努力がいることを覚悟しなければなりません。

# 郷土資料紹介

## ☆ 松江

朝の淡い光の中に宍道湖がひろがり、大橋が浮かぶ。松江は昔から今へと宍道湖から目覚め、宍道湖上に沈む光の残映を見つつ暮れていった。

松江の今昔を知る宍道湖の朝夕が、わずか百頁のこの書を包む表紙に美しい。積年の伝統と風光を誇る松江を、あますところなく映し出した書が、これまでになかったことは不思議なことで、今度の「松江」の出版はその期待に添うものであった。根っから松江人である3人の筆と、この種のカラー写真を数多く手がけた写真家の、巧みな構成は、中央出版のものにない、手さぐりの素朴さと愛情がにじみ出て親しみやすい。特に、今まで知られず、松江の一隅に生きてきた工芸品にスペースがさかれ、又、枕木山の石仏など、従来の松江観光表にない所の発見は、地元出版の強さが窺えて楽しい。大半を占める美しい写真に見とれて、僅かな時間に松江めぐりが終了してしまう、恰好な書である。

## ☆ 出雲の国

### 古代の国々-4

古代中央政権成立期における出雲の果たした役割・立場はどのようなものであったか。これは、国家形成史の上からも、出雲史にとっても重き課題である。これまで文献史料を駆使して論じた書物は多くあったが、考古学の研究成果をもとにして、古代の出雲解明に取組んだ本格的労作は本書が最初である。平易に読めるものではないが、地図とノートをかたわらに、読む労をいとわなければ、本書の多くの図や表も手助けになり、誰でも古代研究のおもしろさ

## ☆ しまね史記

郷土の埋もれた資料を取り上げ、刊行してゆくことを目的とした島根郷土資料刊行会から、オリジナル作として発行された「しまね史記」。

島根の原始、古代から明治維新まで、その永い歴史が実に明快にまとめてあり、容易に読むことができる。これは、新聞に連載され好評を得たもので、堅苦しい歴史から離れ、大変おもしろく読める。それは、気鋭の記者の目が大局的に島根の歴史をみつめ、独得なタッチで書きあげているからで、誰にでも読むことができるのも又、新聞に連載されたものの強みであろうと思われる。日本史との関連において述べられているのも、興味をそそられる基となっている。

歴史は、一部に学問的にのみあるものでなく、むしろ誰でも気軽に親しめることが、歴史的物事の破壊、消滅されようとする昨今、最も不可欠なことである。一家に一冊、郷土の歴史書を揃えておくことも、又必要なことと思われる。

島根郷土資料刊行会  
事務局  
県立図書館内



にひかれるであろう。  
出雲東部に狭いが強大な文化圏があり、一方北陸、山陰を結ぶ汎出

雲世界があったという指摘は、これからの出雲解明に役立つ提起に思える。著者の真摯な筆法に、好感と確かな真実を読みとることができる。そして山陰に多く散在する歴史の生証人である遺跡は、研究家の手を待ち、一般の人々の理解を待っていることを、実感として受けとめるにふさわしい書である。

池田満雄 東森市良共著学生社 950円

# 図 書 館 ニ ュ ー ス

## ◆第16回 こどもの読書週間を終えて!◆

5月1日から14日まで、こどもの日を中心に2週間、全国各地でいろいろな行事が展開されました。

幼少期に身につけた読書の習慣が、その人の精神生活に非常に重要な影響をおよぼすことは明らかで、そのためにも、こどもたちに本を読むきっかけをつくってやる必要があります。

こどもの読書週間は、こどもたちに本を正しく読むことをすすめ、読書のたのしみを教えると同時に大人にとって、こどもの読書とは何か、こどもにとって、良い本をより多く読むことは何を意味するか、という反省の機会を与え、加えて、良い本を世に送り出すためには、出版にたずさわるものだけでなく受け手側即ち読者の側の協力が如何に必要であり、重要であるかを反省するよい機会であると思います。

当館では、この週間の目的にしたがい次の行事を行ないました。

### 1. こどもの本展示

- (1) 同書名による作品の比較——同じ作品でありながら、沢山の種類が出版されています。特に古典、名作、伝記に多く、選択の必要性を強調しました。
- (2) おすすめしたい本——新しいものから幼児～高学年まで数拾点を紹介。
- (3) アメリカ・イギリスの絵本(原本)の紹介。  
絵本は文章が主体ではなく、絵が語るものであるだけに、言語の壁というものがありません。また、作家が子どもの世界にとび込み、情熱をかたむけて作ったすぐれた絵本ならば、それが

どこの国のものであれ、すべての子どもたちに強い感動を与えるはずで。

### 2. 県立図書館こどものつどい開催

期日、会場 5月9日 伯太町赤屋小学校  
5月12日 県立図書館集会室

- 内容 (1) 講話「読書について」  
(2) おはなし等(ストーリーテリング)  
(3) レクリエーション(ゲームとマジック)  
(4) 映画「こどもと読書」

「すばらしい松おじさん」

### (5) 図書の貸出

次に日本図書館協会(森戸辰男会長)が4月30日発表しました「図書館白書1974」によりますと、テレビの好きな現代っ子でも、手近に本があれば、よく読むものだ。最近子供たちの図書館利用が飛躍的に増大し、児童書の貸出し



数は7年前の9.7倍にも達し、テレビっ子は本を読まないという俗説は誤りだと指摘しています。イギリス、デンマークなど欧米諸国に比べると、日本の図書館はまだまだ少なく、全国で県内の全市に市立図書館があるのは岩手、秋田、富山、石川の4県だけ、本県は8市中松江、平田の両市がまだ設置していません。白書は「諸外国に比べると文化国家の割には図書館の数も少なく、利用率も低い」と指摘、住民運動の力で図書館のない市町村を無くすことが必要であり、それには行政当局の「やる気と市民のやらせる気」の強弱がカギを握る「こどもは本が手近にたくさんあり、選ぶ自由さえあれば盛んに本を読むものだ」と強調しています。

## 人 事 異 動

◎お世話になりました。

次長 山本彦彦(県社会課同和対策室へ)  
主査 園山利治(4月1日辞職)  
振興課長 陶山亨(県出納室へ)  
普及係長 木村和夫(県蚕糸園芸課へ)  
視聴覚係長 安達広義(松江教育事務所へ)  
主事 岸本良吉(4月1日辞職)

主事 佐々木初正(県公衆衛生課へ)  
主事 高島芳郎(教育庁社会教育課へ)  
司書 森山典子(4月1日辞職)

◎よろしくお願ひします。

次長 平野 徹(県立松江南高等学校より)  
振興課長 金津 弘(県出納室より)  
主幹 松本喜雄(県公衆衛生課より)  
視聴覚係長 規家文雄(松江市立朝日小より)  
主事 福岡耕治(西郷土木事務所より)  
運転技手 原 昌平(県畜産試験場より)

## 資 料 紹 介

### ◆映画フィルム◆

## 子どもと読書

16ミリカラー 34分

東京都日野市の子ども図書館は、公共図書館として大変よくできているが、外国に比して日本は遅れているという。そうしたなかで、「子どもたちによい本を」と願う母親たちが家庭文庫や地域文庫を作っているの、その四例を紹介する。

親と子の本の関係について、8ヶ月の赤ちゃんにただ本を持たせるのではなく、母親が本を使って働きかけることで、赤ちゃんは心をゆきぶつてくれる快よい刺激を知り、本を通して親子のコミュニケーション、親子読書が始まる。

一才半ともなると、本を仲介に生活の中の事物を認識し興味をもつようになる。保育園での読みきかせでは、本の世界の日常生活と一致する興味、これが仲間との共感となって、遊んでいるような楽しさを感じるのである。

子どもの心理的な成長にとって読書は、遊びと大変似ている。子どもは本の世界で、のびのび解放され、自由にかげめぐって躍動する。そこでどんな本が子どもによいのか比較してみる。子どもの心を自

由に遊ばせるか、性急なしつけ、子どもの心を型にはめてしまう絵本かどうか。

偉人伝ばかりを読ませようとしたり、読書感想文を無理にかかせず、興味をもたせ、子ども相応のものを読ませるがよい。読書力の発達をみながら、興味に応じて、豊かに本を身近かに揃えることが大切である。以上がこの映画のあらましです。

子どもたちが成長してからも、いつまでも胸に残る、心の栄養を充分与えたい。それには手近に多くの良い本を……と願うお母さんたちの声がひろがっています。

図書館網の整備がされている現状の中で、家庭文庫、地域文庫がお母さんの手で作られ、公共図書館設置もめばえています。けれど一方では、子どもの本に無関心な人、図書館について古いイメージしか持たない人もいます。そこでこの映画は、子どもの成長にとっての読書の役割・必要性を解説し、併せて家庭地域文庫の活動、新しい公共図書館のサービスなども紹介し、わかりやすくまとめています。



### ◆親子読書の本◆

## ふきまんぶく

田島征三 文・絵 偕成社 650円

●親と子が同じ本を読んで心を通いあわせ、ひいては子どもの読書の習慣を養い、親の読書意欲をも刺激するというので、親子読書の会をもつグループがふえてきた。当館も徐々に、そのための本を揃えつつある。その中の一冊「ふきまんぶく」――。

絵本をというの、字を読まなくても、絵を追うだけでストーリーになるのが良い本とされている。

その点、この本は絵の部分と活字の部分が別れ、活字のバックが白というのも良い。「ふきまんぶく」

とは落のとうのことである。ふきちゃんという女の子が、山にひかっているものを探しに行ったら、それは落にたまっている夜露で、落とお話をしているうちに、ふきちゃんは眠ってしまう。朝、お父さんにみつけられて帰るが、翌年又ふきちゃんの仲間・落のある場所に遊びに行くというお話、何か土の匂いのする絵本である。絵も素朴で、ふんわりとした情感を与えてくれる本である。